

だから、あなたと私の村の意で、昭和三十九年、徳川夢声、石黒敬七らによつて設立された。面積十三ヘクタール、ギスギスした世の中をさけて心のふるさと、緑ときれいな空気を求めて設けられただけに、心をひかれる。例えば、古い民家をそのまま移して施設とした。本陣は二六〇平方メートルもある入母屋造りの旧家で、四層になった萱、建屋をぐるりと囲む回廊、黒く曲がつたかもし、けむりで油光りしている自在かぎなど、郷愁が迫ってくる。パンガローもあつてキャンプも楽しめる。もちろん宿泊もできる。

### (三) 小野小町の墓

新治郡新治村小野の小野氏邸内にある。伝えによると小野小町は、郷里秋田への途中、近くの清滝観音に参詣し病を得てこの地に没したと。五輪塔の墓碑は小田城主小田氏治が建てたもの。東京方面の花柳界の女性の間に信仰されている。小町は千百年前平安時代六歌仙の一人である有名な歌人で、古今集、新古今集などに採収されている。しかし、その伝記は極めて不明でその出も、出羽の郡司の女とも、小野たかむらの孫で良真の女ともいわれ、はっきりしない。六歌仙の文屋康秀、僧正遍昭との贈答歌があるので実在の人物であることは言うまでもない。従つて小町の墓と称するものも各地にある。

### (四) 清滝観音

新治郡新治村にある坂東二十六番の札所。推古天皇の十五年(六〇六)勅願により竜ヶ峰に建てられたが、後大同三年(八〇〇)徳一により現在地に移った。その後、元龜、天正の戦火に焼け、天保十五年五月再建されたが昭和四十四年十二月焼失、仁王門だけ火災をまぬかれた。本尊は聖徳太子作と伝えられる三メートル半もある聖観音菩薩であつたが、このとき焼失した。参道には旧巡礼宿が残っている。(土浦史研究家)

## 湖の檻 畠山弧道

鯉も鮒も白い腹みせ浮きあがり  
いよいよせばまる湖の檻

備前川の霞ヶ浦にそそぎこむ  
流れにもにがり釣果あがらず

工場汚水家庭排水と流れ込み  
魚のすめない旧桜吐出し